今後の事業戦略

更なる空港の機能強化と今後のスケジュール

成田空港の更なる機能強化

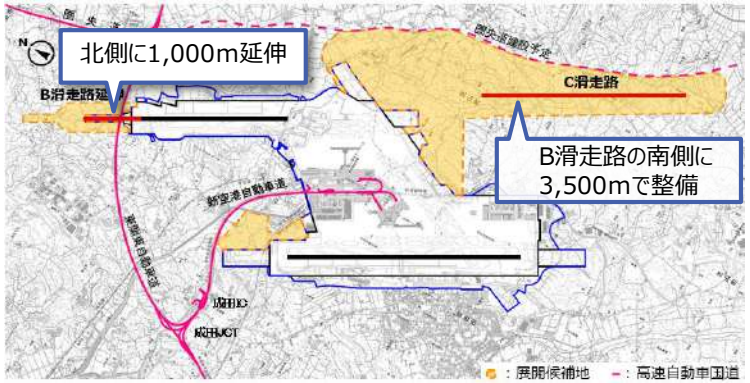
【2018.3.13】
・国、千葉県、空港周辺9市町、空港会社による四者協議会において更なる機能強化に関する**最終合意**

①**滑走路の増設（C滑走路）**及び**既存滑走路の延長**
※約1,000haの敷地拡張
②**夜間飛行制限の変更**
○運航可能時間の延長(6～23時⇒5～0時30分)
○22時台の便数制限の廃止

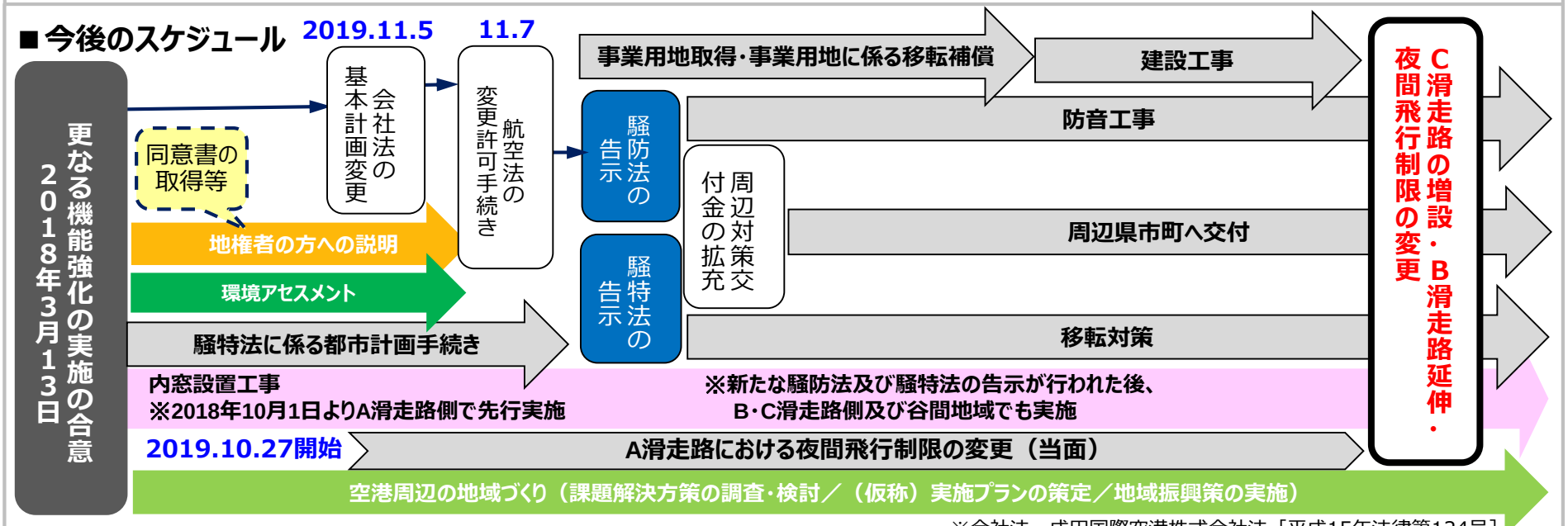
更なる機能強化により、空港容量を30万回から**50万回**へ拡大

【2019.11.5】
・更なる機能強化の合意を受け、国は53年振りとなる成田空港の基本計画を改定
【2019.11.7】
・更なる機能強化（B滑走路延伸・C滑走路新設等）について、航空法変更許可申請書を国に提出

滑走路の増設及び既存滑走路の延長イメージ



■今後のスケジュール



※会社法…成田国際空港株式会社法［平成15年法律第124号］

成田空港が目指す空港像【発着回数50万回時イメージ】

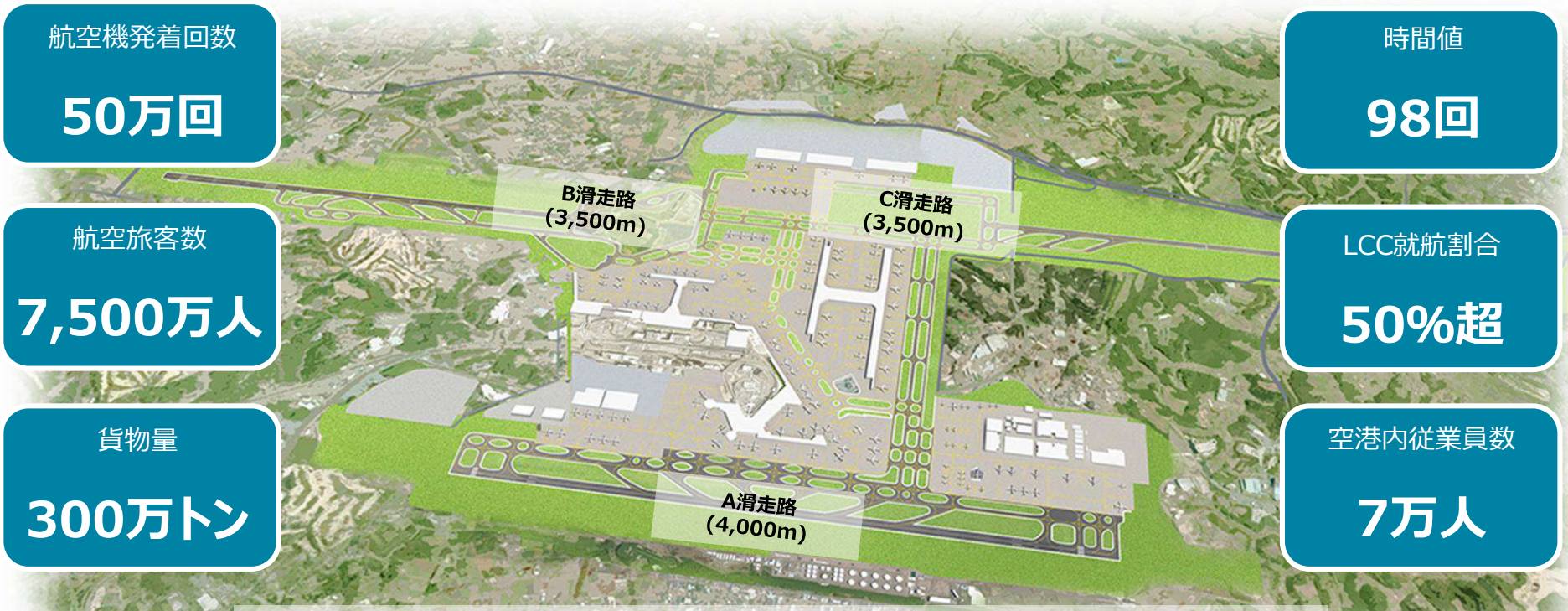
Narita Airport

首都圏空港の発着回数は年間100万回となり、世界トップレベルへ（成田50万回・羽田50万回）

航空機発着回数
50万回

航空旅客数
7,500万人

貨物量
300万トン



時間値
98回

LCC就航割合
50%超

空港内従業員数
7万人

※現時点のイメージであり、具体的な整備計画は今後の需要動向や社会情勢等を踏まえながら今後検討。

我が国及び首都圏の表玄関として、成田空港の競争力を可能な限り高め、増大する首都圏航空需要に適切に対応することにより、名実ともに日本のゲートウェイ、かつ、アジアのリーディングエアポートとしての地位を確立

お客様、航空会社の満足度向上に向けた取り組み

Narita Airport

■ 満足度向上のため、マーケット分析を通じ、自らの立ち位置、お客様・航空会社の求めるものをしっかりと把握することが必要

お客様、航空会社
それぞれの満足度を高め、
「選ばれる空港」を目指す

● 市場分析
● マーケティングの強化

● 旅客満足度の向上
■手続きの短縮、快適性の提供
・ファストトラベル
・次世代ﾌｧｽﾄﾄﾗﾍﾞﾙ(One ID)
・ワンストップセキュリティ
■トータルコストの低減

● エアライン満足度の向上
■インセンティブの提供
■戦略的なプライシング
■省力化
■トータルコストの低減

高効率運用に向けたアプローチ：ファストトラベル※

- IATAが提唱するファストトラベルを推進。自動化や案内表示の改善により手続きにおけるスループット向上を図る
- お客様にとっては「手続きにかかる待ち時間の短縮」、航空会社にとっては「業務の効率化」や「定時運航率の向上」、空港にとっては「取扱処理能力の向上」や「ターミナル内の混雑緩和」等に繋がる
- 加えて、お客様が手続きを終え早く出国手続き後（免税店）エリアに行っていただくことで、リテール売上の増加にも繋がる

戦略目標

タッチポイントごとにKPIを設定し、ステークホルダーとの運用改善を実施

※ 目標値は混雑時間帯(夕方)における平均。

チェックイン	保安検査
セルフサービス :7分以内 有人サービス :20分以内	10分以内

※国際航空運送協会（IATA：International Air Transport Association）が促進する「旅客手続きの自動化プログラム」

次世代の新しい手続き - One ID -

- 顔画像をデジタル認証し、本人確認・搭乗便確認を行う次世代ファストトラベル「OneID」を実用レベルで導入
- 空港での最初の手続き時に顔写真を登録すると、その後の手続きにおいて搭乗券やパスポートを提示することなく、“顔パス”で通過

One IDの手続きの流れ

※イラストは機器イメージであり、仕様は変更される可能性があります。

2020年春までに第1PTB南ウイングと第2PTBに導入

ワンストップセキュリティ

- 北米発で成田乗継旅客の保安検査を省略するワンストップセキュリティを開始
- 現在、北米路線全48便の6割弱を対象としているが、2019年11月以降、対象を全48便に拡大
- これにより北米からの乗継利便性が大幅に向上

・乗継時間の短縮
・コストの削減

・負荷低減
・利便性の向上

・ピーク時間帯の混雑緩和
・空港内店舗の売上増

2019年11月から対象路線を
北米を出発する全路線まで拡大

インセンティブの提供

- 2013年の増量割引導入以降、市場動向を鑑みながら、インセンティブを充実させてきたところ
- 今後も戦略的かつ柔軟に料金政策を展開していく

2013
- 国際線増量割引 ←New！

2015
「成田ハブ化促進インセンティブ」
- 国際線増量割引
- ・国内線増量割引
  ・新規就航割引 ←New！

2017
- 国際線増量割引
- ・国内線増量割引
  ・新規就航割引
- マーケティングインセンティブ ←New！

2019
- 増量割引
- 新規就航割引
- マーケティングインセンティブ
- 朝発ボーナス

20XX 今後も戦略的かつ柔軟に料金政策を展開

トータルコストの低減

- 空港間競争に勝ち抜くためには、市場分析を通じ、自らの位置づけを確認し、その上で顧客の求めるものを提供することが肝要
- 今後、旅行客の旅行トータルコスト、航空会社の運航トータルコストの低減に向けた施策を実施

市場分析の実施

施策の実施（トータルコストの低減）

旅客向け

ローコストバスネットワーク（LCB）の拡充

LCC･FSCのネットワーク拡充

航空会社向け

経済合理性の働く包括的な料金体系の導入

運用コストの低減

使い勝手の良い、利用しやすい“選ばれる”成田空港へ

成田国際空港BCPの成文化

- 9月の台風により始発からの鉄道運休や高速道路の通行止めが発生、交通アクセスが途絶し、結果滞留者が多数発生
- 振り返りを踏まえて10月の台風に対応、多言語案内、滞留者抑制対策を成田国際空港BCPに反映、10月に成文化

9月の台風対応で認識した新たな課題、対応策

・出発便の欠航やダイバートが発生、到着便は正常運航

・交通アクセスが道路を含め不通、鉄道が終日運休になった影響で、当日夜には約13,000人の滞留者が発生

①体制の強化（アクセス事業者の参画等）

②滞留者抑制対策の強化（着陸制限、代替輸送等）

③多言語での情報提供の強化（一元的な情報発信等）

総合対策本部会議

多言語での情報提供

10月（台風19号）

・交通アクセス事業者（鉄道・バス・道路会社）の参集、状況把握、意思決定を実施

・着陸制限で滞留者を大きく低減、多言語での情報提供強化も行い、大きな混乱なく翌日に運航再開

成田国際空港BCP*への反映、10月に成文化を実現

*BCP：事業継続計画
（**B**usiness **C**ontinuity **P**lanning）

成田空港のプラスチック・スマート宣言

■ 世界的に問題となっている海洋プラスチック汚染に対し、空港内で使用するプラスチック製品をエコ素材へ切り替える等、持続可能な社会の実現を目指し、環境に配慮した取り組みを積極的に推進

2019年9月～

- NAAグループ直営店のプラスチック製のストローを紙製に、ショッピングバッグをエコ素材に100%切り替え開始

今後

- 空港関連事業者が実施している使い捨てプラスチックの使用削減等の取り組みや同製品の使用状況の把握
- 生分解性のあるショッピングバッグの素材や強度検証の実施
- オリジナルエコバックを製作・お客様へお土産として販売

2025年まで

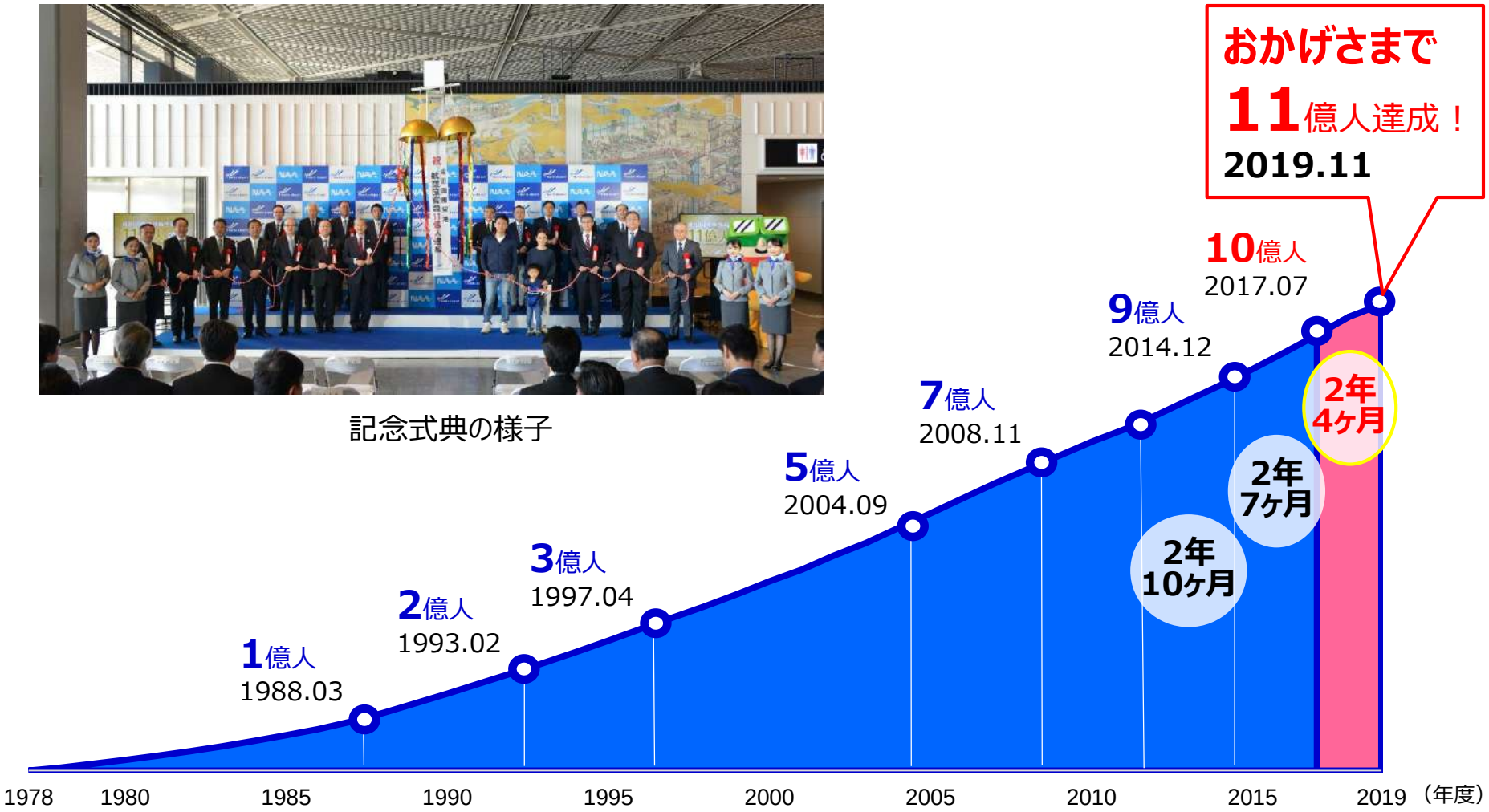
- NAAグループ直営店舗、ラウンジにおいて **使い捨てプラスチック製品の100%サステナブル化**を目指す

紙製ストロー

ショッピングバッグ

Plastics Smart

航空旅客数11億人達成

- 1978年5月20日の開港以来、成田空港をご利用になるお客様は着実に推移、2019年11月21日に11億人を達成
- 前回の9億人から10億人達成日までの期間よりも3か月早い、2年4か月での達成となった

記念式典の様子